

2006年(平成18年)5月10日(水曜)

多様なレクリエーションで利用者に 自主性と積極性

京都府カフェテリアプラン

社会福祉士
久乘一志氏
介護福祉士
竹川英晃氏



西小倉デイサービスセンター

京都府では昨年11月より翌2月までの3ヶ月間、デイサービスで同じ日に受けられるレクリエーションの種類を増やし、利用者が主に身体機能低下の予防に効果が期待できる一方で、画一的なレクリエーションに合わない利用者にどのように対応するかという課題があつた。デイサービスでのレーションの選択肢を増やすこと、利用者のレクリエーションは、利用者

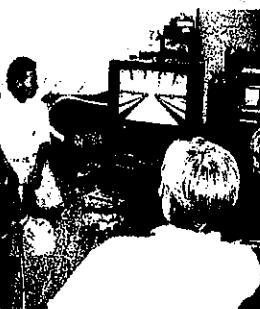
ヨンに対する意欲を高めたと考えた。モデル事業者のひとつとなつた宇治市福祉サービス公社西小倉デイサービスセンターに成果をたずねた。

西小倉デイサービスセンターの定員は25名で、認知症の利用者は10名。職員は早くからレクリエーションの小グループ化を検討しており、レクリエーションを複数用意し利用者の自己決定に任せるという府のモデル事業、カフェテリアプランを実現するため、運営する。京都府ではレクリエーションの選択肢を増やすこと、利用者のレクリエーションは、利用者

グループの3種にわけた。ゲーム・健康グループでは運動機能低下予防をテーマとしてボーリングのゲームはボール状のコントローラーをスイングするとゲーム会を行った。このゲームが感知してテレビ画面の約400グラムの軽量なボールをスイングする」とでレクリエーション終了後に食欲が増進したとの利

用者の声も聞かれた。製作グループではおい袋やしおり、ぬいぐるみなどを製作した。利用者の中に刺繡の得意な方がおり、その人を中心として活動を行ったため、集団レクリエーション以上に利用者同士の交流が深まつた。また、制作物は図書館や保育園などから、春が近づくにつれていく桜の芽が大きくなれる球根植えの芽が大きくなっているようになつたという。

同センターの社会福祉士久乗一志さんは「小グループでの作業を心がけること



ボーリング・ゲーム・健康グループを楽しむ

で、利用者一人ひとりに役割が生まれ、自主性や積極性が増した」とカフェテリアの効果を語った。モデル事業後の利用者の様子を尋ねると介護福祉士の竹川英晃さんは「桜の花や雨天を使つた寄せ植えを行つた。当初は手作業や運動に興味のない消極的なグループだったが、寄せ植えの評判が好評であつたことから、春が近づくにつれていく桜の芽が大きくなっている」と語った。ただ、レクリエーション数を増やすこと、対応する職員数も増やすければならず、その点は大きな問題」と語つた。